

富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

デジタル社会の実現に向けた情報提供施設の役割は？ 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会 2022年度総会・第18回(通算第30回)大会の報告



6月17日(金)、一般社団法人愛知県聴覚障害者協会(あいち聴覚障害者センター)が主管し桜華会館にて、2022年度総会・施設大会が開催されました。今回の開催方法はハイブリット方式で、正会員施設53のうち20施設は対面、残りの33施設はオンラインでの参加がありました。

総会では、2021年度事業報告として、①新型コロナウイルス感染症に関する緊急経済対策として、遠隔手話サービス等が始まったが、未だに新型コロナへの対応に限定するなど狭い範囲でとどまっている、②ライブラリー貸し出し状況の減少は、ライブラリー専用職員の減少に繋がっている。情報ライブラリーのオンライン化などICT(情報通信技術)活用が求められているが、ICTに関する知識や技術を持つ職員の確保ができていないなどの課題が挙げられました。今後は、施設側だけでなく、利用する聴覚障害者のICTスキルアップのための研修・講習が必要となるということです。

決算、事業計画、予算案等他に理事定数変更の定款変更を審議しました。採択の際、対面参加者は挙手、オンライン参加者はインターネットを通して全議案に一括入力を行うなど採択を進めました。すべての議案が承認されました。

総会後の施設大会では、「デジタル社会の実現に向けた情報提供施設の役割」を厚生労働省自立振興室室長補佐の富原博氏、「昭和末期から始まったネットワークが今や視覚障害者になくしてはならないシステム」を全国視覚障害者情報提供施設協議会常務理事の山田智直氏にそれぞれのテーマにて講演して頂きました。講演後、お二人の講師に加え、全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏、障害者放送通信機構理事長の高田英一氏の4人のシンポジストによるシンポジウムを行いました。「ICT技術を活用した聴覚障害者向け情報ネットワークの構築とその活用について」をキーワードにそれぞれの立場からコメントをいただき、議論を深めました。



定款変更に伴うNPO法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会の理事及び監事の選任については次の通りです。

理事；竹内恵子氏(神奈川)、坂井隆行氏(新潟)、監事；藤川健氏(山梨)
来年は、山梨県にて開催される予定です。

センター利用の実績 5月21日～6月20日

- 来所者合計約469名
聴障者約207名、健聴者約262名
- コミュニケーション支援 84件
- ライブラリー貸出 1件
- 相談対応4件 ●部屋貸出31件

★センター運営募金を
お寄せ下さい★

郵便振替口座；
00790-0-93002
名称；富山県聴覚障害者
センターを支える会
よろしくお願ひします。